

正法寺で帰敬式

永代経懇志打敷購入披露



すべてのひとに
今日がある
あること難き、
今日である

藤代聰磨

2023.1
21号
正法寺発行

永代経懇志打敷披露

永代経懇志とは、

昨年十月の永代経法要にて、ご門徒三名の方の永代経懇志にて購入した打敷を披露いたしました。これまで正法寺にはなかつた、天女の絵柄が描かれていて、とても華やかな打敷です。今後も永代経法要や、報恩講、お正月などに使用していきます。ありがとうございました。

永きにわたり經（教え）が受け継がれていって欲しいと願い、その教えを伝えていく聞法道場であるお寺を護持していくて欲しいとの故人の願いをご縁として行われる御懇志であります。通常、大切な方がなくならた時や満中陰（四十九日）の法要を終えて落ち着かれたときなどにお納め下さいます。春秋永代経の折に故人の法名軸をお掛けしてお参りいたしますが、故人の供養を中心とする永代供養とは異なり、亡き人をご縁として大切な教えが説かれている經を誦誦し、故人が大切にされたお念仏の教えを受け継いでいくということを目的として厳修されるものです。

真宗・入門



正法寺は真宗大谷派の寺院です

打敷とは？

お仏壇をお飾りするための莊嚴具の一

つ。もともとは、お

釈迦様が説法なさる

時に仏弟子たちがお

釈迦様のために座具

を敷いたことが始ま

りと言われている。

『お仏壇のはせがわ』
ホームページより

打敷の使い方

打敷は平常ではか

けず、祥月命日、年

忌法要、報恩講、お

盆、彼岸会、お正月

などあらたまつた時

に上卓と前卓の上板

に白布部分をはさん

でかけます。



仏教の中の天女

仏教においての天人とは、天上界に住む超自然的な存在のことと言います。元々はインドの民俗信仰に基づかれていて、日本の逸話にも多く登場します。天人は、容姿端麗で頭には華鬘（けまん）をつけ、羽衣を着て飛行しながら、樂がくを演奏し、天華（てんげ）を散らし、天香（てんこう）を薫じて、仏や淨土をたたえ、瑞雲（ずいうん）と共に地上に下りるとされていました。古くから仏教の莊嚴で用いらされました。



新しい打敷には天女が描かれています

参考文献

精選版日本国語大辞典「天人」
日本大百科全書(ニッポニカ)



昨年12月5日の報恩講法要初日、「正法寺で帰敬式」を無事執行いたしました。「法名」を受けられ、仏弟子としての歩みを始められること、大変うれしく思います。申込の段階では24名の方が希望されておりましたが、いろんな事情があり当日受けられなかった方もおられます。これから毎年執行しますので、ぜひ来年受式ください。

受付や、会場係なども
総代さんが。検温など
もこちらで行いました。



スタッフとして総代
さんが参加されまし
た。司会は坂口の
今里裕文さんでした。



執行しました

正法寺で帰敬式

令和四年 十二月五日 十三時半より



⑦誓いの辞は、小路口
の富岡満子さんがさ
れました。



「正法寺で帰敬式」

- ①開式の辞
- ②真宗宗歌齊唱
- ③三帰依文唱和
- ④剃刀の儀
- ⑤執行の辞
- ⑥法名伝達
- ⑦誓いの辞
- ⑧法話
- ⑨恩徳讚齊唱
- ⑩閉式の辞



洗心会活動報告



中止せず開催しています！

■ 1日研修会（2022年 6月19日）

本当は昼食もはさんで1日かけて行う研修会ですが、感染拡大を鑑みお昼までにしました。ご講師は昨年まで花まつりをお願いしていた寺本温先生でした。（参加者 25名）



■ 敬老会（2022年 10月16日）

これまで75歳以上の方を対象にしていましたが、今年から会員全員でお祝いをすることに。多くの参加者があり、お持ち帰りの弁当を用意しました。

（参加者 38名）



昨年は「おおむら子ども食堂」さんとのコラボ企画がたくさんありました！夏の宿題大作戦や、秋の芋煮会など、民生員さんや、現役教師の方、一般会社の方、英語の先生など多方面の方々が正法寺の本堂で子どもの支援にあたられました。来年も企画を続けますので、物資の支援などあられたらお寺までお知らせください。

正
法
寺
近
況



手作りの正信偈書写本完成！



そろそろ仏具磨きませんか？

月に一度は
導く時間
わたしを
お寺に行こう！

報恩の心に学ぶ
自分との向き合い方

月一報恩講
行いが
わたしを
お寺に行こう！

月一報恩講

しんらん聖人の命日のつどい



昨年の月一報恩講は、帰敬式で無事終了。今年も3月28日から始まります。ぜひスタートの3月からご参加ください。来月詳しいチラシを配布いたします！



花をいけるちょっとしたコツ



絵本朗読で知る正信偈

坊守の仏ブツ 寺日記



昨年の一月に東京の「真宗会館」が発行している隔月誌『サンガ』に文章を寄稿しました。ご門徒のみなさんにも共有したく、こちらに転載します。文章は、大谷派僧侶の法語を読んで思ったことを書いています。

悲しみの深さは 贈り物の大きさ

(宮城 頽)

お寺で坊守というお仕事をしています。住職の配偶者であり、ご門徒さんの対応、事務や雑務などいろんな場面でお寺を支える立場です。日々出会う方の多くは近親者の「死」がご縁でお寺に来られるので、「悲しみ」はいつも近くにあるものと感じています。

「悲しみ」の一つの姿に「泣く」ということがあります、「泣く」ということについては、いつも二つのことを思い起します。一つは、大学生の頃に父が末期癌になり、それを本人から聞いたものの、なかなか受け止められず、毎日毎日泣いていたこと。もう一つは、長男を出産した翌日、理由を把握する間もなくぼろぼろ涙が出ては止まらず、急激な落ち込みを感じたことです。喜びの涙とは違っていました。「生と死」という人間の根源的な問題に関わる場面で、私は全身で泣いていました。父が癌だと知った当時は、ペストセラーにもなっていた五木寛之さんの本をよく読んでいました。バブルがはじけ、暗

くしようとするのではなく、暗闇を感じる大切さ、「泣く」ことのススメのようなことを五木さんは繰り返し書いておられました。その言葉は止まらない涙を支えてくれました。長男を産んだ時は、不安が大きかったのでしょう。目の前の新しい命はただただ輝かしいのに、先の事を思うと不安がどんどん襲つて来て、仕方なかつたのだと思います。

「泣く」と、涙が出ます。涙は上から下に落ちる。喜びはどちらかというと下から上のイメージがあります。涙は私の内側から下にこぼれ落ち、地面に流れ、私の歩いていく大地

にしつかり潤いを与え、豊かにしていく。前向きに頑張れ!、とガツツな言葉だけが自分の行く末を支えていくのではありません。私自身、「生と死」に通底している「悲しみ」への出会いが、自身の人生を歩む大きな支えとなっています。

「悲しみ」が贈り物になる。そして下に流出する涙が多ければ多いほど、自分の歩く大地が潤うのだとしたら、悲しみをぎゅっと抱擁できるような気がします。

お寺という場が、そんな風に「悲しみ」とまっすぐ向き合い、そこから始まる道の支えとなる贈り物を、受け取つていける場になればいい。そんな事を思いながら、今日もお寺の門を開けておきたいと思います。

長野 文 (正法寺坊守)

東本願寺真宗会館
東京での仏事関係はこち
らにご相談ください。
TEL 03-5393-0810
〒177-0032
東京都練馬区谷原1-3-7



グリーフケアの視点から② ~坊守発信~

グリーフケアの観点から2回めの発信です。

《グリーフとは大切な人、ものなどを失うことによって生じるその人なりの反応、プロセスのこと》

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、葬儀を中心に法事や仏事の形も変化が大きくなっています。簡略化をのぞまなくともそうなる場合もあるようです。何かご心配なことがあればお寺にご相談ください。

また、新型コロナウイルスの有無に関係なく、身近な方とのお別れというのは人生の中でも非常に大事な時間です。葬儀から49日までの時間を過ごす中で、亡き人との出会い直しが出来、そしてゆっくりとお別れができます。ぜひその時間を大切にしていただきたいと思います。

人は喪失体験をした時、心理的・身体的・社会的など多方面に影響がでます。今回は心理的な面でのご紹介をします。

心理的影響

【悲しみ・怒り・安堵・後悔・自責・無感動・無感覚・絶望感】

喪失を経験すると、悲しみだけがおこるのか?というとそうではありません。上記にあるように、様々な心的な影響が複雑に入り混じることがあります。しかもそれは、一人一人生じ方が異なります。「もっと一緒にいたかった」という寂しさや、「〇〇しておけばよかった」という後悔、「なんで私がこんな思いをしなければいけないんだ」という怒りにも似た感情。初めてことに否定したくなることもあるかもしれません、そういういた感情の混乱は誰にでもおこる自然なことです。どうかゆっくり、あせらずにお過ごしください。

次回は社会的活動へ影響を紹介します。

参考図書「大切な人を亡くしたあなたへ」⇒
製作:リヴォン 書籍が欲しい方は坊守まで



これも仏教用語?!

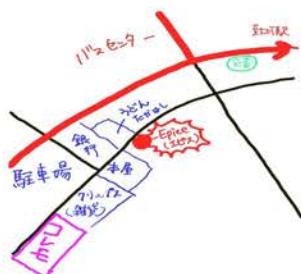
普段から使っている言葉には
仏教由来の言葉が実はたくさん。
そんな言葉を紹介します。今回の言葉は、

「流通（るづう）」



私たちの日々の暮らしはさまざまなものによつてつくられています。特にあふれるような商品を媒介にした経済社会は私たちの生き方を根本から変えてしまう力があります。その商品が右から左へと流れることが一般的に使われる「流通」です。現代は電子化が進み、流通もますます盛んになりました。流通が盛んになればなるほど、私たちの生活は豊かで便利になるのでしょうか。しかし、その反面、私たちの欲望生活がますます刺激されて、いよいよモノの世界に埋没して、自然と共に生する私たちを見失うこととなります。それは「兎追いしかの山、小鮒釣りしかの川」と愛唱される世界が思い出のかにしかない現実がよく現しています。しかし、もともと仏教語としての「流通」は、釈尊の教言が全ての人々に行き渡ることを表しています。物欲に惑わされた私たちを問い、人間に立ち返ることを願う言葉です。

特に經典を解釈する場合に用いられる三分釈（經典を序分、正宗分、流通分と三つに分けて解釈する伝統的な方法論）で用いる「流通分」は、端的に、釈尊の願いがどこにあるかをはっきり表すものです。商品を流通するのとは違いますね。尾畠文正 おばた・ぶんじょう 同朋大学教授



（法務員／島田）

大村の食材といえばコレモ！大村駅近くの結構有名なスーパーです。そのコレモから歩いてすぐの場所に見つけましたよ、カレーとカフェのお店、その名も「Epice（エピス）」今回はランチメニューから二種類盛りカレーをいただきました。国産の鶏もも肉と数種類のスパイスを絡めたスパイシーチキンと長崎県産の豚ひき肉を使い、お味噌や醤油などの和ティストで仕上げられたキーマの贅沢な取り合わせがとても美味しかったです。辛さが気になる方も、一緒に付いてくるラッシャー（ヨーグルトドリンク）が助けてくれます。お買い物ついででも、開いてるを見かけたら立ち寄らなければいかがでしょ？



EPICE
エピス



〒856-0831
大村市東本町458
電話：0957-54-8731
OPEN: 11:30 - 14:00



ありがとうございます

毎年配布しているカレンダーの講ごとの仕分けを、昨年は「南無船会」のみなさんにお願いしました。今後も様々な面でのご協力を期待しております！



毎年お初穂の時期から年末年始にかけて、たくさんの新米をお供えいただいております。こちらは、各法要で配布しているお弁当などで大切に使わせていただきます。ありがとうございます。





住職が語る『正信偈』 第21回



帰入功德大宝海 得至蓮華藏世界 遊煩惱林現神通 入生死園示應化 即証真如法性身 必獲入大会衆數

天親菩薩は『大無量壽經』という經典の意（こころ）を『淨土論』という注釈書で正しく説いて下さいました。その『淨土論』の冒頭で述べられる「一心」という言葉を親鸞聖人が「まことの信心である」と教えて下さいました。阿弥陀如来の本願の功德により救われていて、それを前回学んでまいりました。阿弥陀如来の本願の功德により救われていて、「一心」と表現されるようにお釈迦様が仰っていることをふたごころなく信じてよろこんでいく時、私たちはどういう功德を得るのか。そのことをあきらかにして下さっているのが今回からの段落です。

まず一つ目として「帰入功德大宝海必獲入大会衆數」、「功德の大宝海に帰入すれば、必ず大会衆の数に入る」とを「獲」と仰います。海のように広大な阿弥陀如来の功德の宝とはお念佛のことです。また帰入とは帰依するということ、深く教えにうなずいておまかせしていくことです。南無阿弥陀仏とはたった六字の短い言葉ですが、この上なく広く深い功德に満ちており、そ

のにお念佛の教えに深くうなずいておまかせすれば、必ず阿弥陀如来の淨土でおこなわれている説法の大会場の聴衆の一人となるということです。端的に言うと阿弥陀の淨土に必ず生まれるということです。

そして二つ目は「得至蓮華藏世界即証真如法性身」、「蓮華藏世界に至ることを得れば、即ち真如法性の身を証せしむ」と説かれます。蓮華藏世界とは、泥中に染まらず、そこから華を咲かす蓮のような徳をそなえた世界、すなわち阿弥陀如来の淨土を表します。そして真如とはあるがままということであり、眞実そのものを表し、法性は万物の本当のすがたということです。つまり眞実そのものと同一となるということですから、眞実に目覚める、悟りを得る、仏となるということです。淨土に生まれるということは仏様の一人になるということだと天親菩薩はあきらかにして下さっています。

親鸞聖人は我が身にまでお念佛の教えが届いたことを非常によろこばれた方でした。念佛の教えを直接教えて下さった師である法然上人を勢至菩薩の化身であると尊ばれ、夢のお告げで人生の大切な指針を示して下さった聖德太子を觀音菩薩の化身として慕われた方です。今回のお念佛の功德をいたしました3つの証は、淨土に生まれたり、最後の三つ目は「遊煩惱林現神通入生死園示應化」、「煩惱の林に遊びて神通を現じ、生死の園に入りて應化を示す」と教えて下さいます。「煩惱の林に遊ぶ」というのは非常にユニークな表現ですね。煩惱の林とは、煩惱に満ち満ちていて私たちを迷わせる深い森林です。つまり私たちの世界です。そこに遊ぶように気軽に自在に出入りして、神通力と表現されるようになります。また「生死」というのは迷いを繰り返していくことです。「応化」というのは、その人の迷いや苦悩に応じて、適切な姿に変わり現れるということです。阿弥陀如来の淨土に生きるのを救いたいと様々なかたちで私たちにはたらきかけて下さる存在であるということです。

親鸞聖人は我が身にまでお念佛の教えが届いたことを非常によろこばれた方でした。念佛の教えを直接教えて下さった師である法然上人を勢至菩薩の化身であると尊ばれ、夢のお告げで人生の大切な指針を示して下さった聖德太子を觀音菩薩の化身として慕われた方です。今回のお念佛の功德をいたしました3つの証は、淨土に生まれたり、そこで仏になつたりと死後の世界の問題のように捉えがちですが、親鸞聖人は今まさにお念佛の教えを依り処として人生を歩む中で、自らの仏道の歩みが始まる、親鸞聖人のお姿から方です。一心という信心によつて、おかげさまでという頭の下がつた人生の歩みが始まる、親鸞聖人のお姿からそのようなことを想わせていただく段落かと思います。